



益城中央被災市街地復興土地 区画整理事業着工式を開催

事業に着手した11月10日、旧役場庁舎敷地で着工式が開催されました。

式典には、国会議員、県議会議員、町議会議員、地元区長、土地区画整理審議会委員など約130人が出席しました。

開式が告げられると、まず主催者である蒲島郁夫^{かほしまいくお}知事が、「この区画整理事業につきまして、私^{わたくし}が先頭に立ち、時間的緊迫性を持って、全力で取り組んでまいります。そして、この事業による創造的復興が、益城町のさらなる発展へとつながり、その効果が、熊本県全体、そして九州へと広がっていくものと確信しています」と述べました。

同じく主催者である西村町長が、「本日、益城町は、多くの方々^{みなさん}に支えられ、「住みたいまち、住み続けたいまち、次世代に継承したいまち」の実現に向けて、大きな一歩を踏み出します。そして、益城町に関係する全ての皆さまとともに、オール益城で、この歩みをさらに大きく、確実なものにして

いきたいと思っています」と述べました。

主催者2人が事業に対する決意を述べた後、来賓として出席した人たちから、祝辞が述べられました。

また、アトラクションとして、町の子ども劇団「まじきっずプレイヤーズ」によるダンスが行われました。ダンスの前には、くまモンが飛び入り参加。子どもたちは、突然のくまモンの登場に驚いていましたが、音楽がかかると息の合ったダンスを披露。事業着工に華を添えました。

木山中の生徒たちは、映像を使い、復興に向けて取り組んでいることを発表。「復興は木山中から」をスローガンに、復興していく町の姿を記録したり、動画を作成していることを、生徒代表の6人が堂々と発表しました。

最後にくわ入れ式が行われ、蒲島知事、西村町長、来賓の国会議員などが盛り砂に並び、「えいっ！ えいっ！」の掛け声とともに、くわを入れました。